

# 家畜人工授精

2025 7月 (通巻 326号)

## 目 次

技 術 情 報	分娩間隔の短縮による家畜生産基盤の強化に向けて (不受胎牛の早期発見法の開発) …………… 東海大学・総合農学研究所 今川和彦、モハメド・サミー・ヨーセフ、原川健太郎 東京薬科大学・薬学部 草間和哉 (1)
国 内 情 報	受胎率調査結果 …………… 一般社団法人日本家畜人工授精師協会事務局 I 受胎率の算出方法 …………… (6) II 令和4年次受胎率調査(確定)について …………… (10) III 令和5年次受胎率(速報) …………… (19)
海 外 情 報	家畜における胚生産とETの統計(2023年) “現在、全世界の <i>in vitro</i> で生産された牛胚の個数は、 <i>in vivo</i> 由来の牛胚の 5倍に増加している” …………… 訳: 日本胚移植技術研究会 小島敏之、橋谷田 豊 (26)
国内情報Ⅱ	家畜改良増殖目標 …………… 農林水産省 (42)
事業団便り	…………… (71)
本協会だより	…………… (72)
あ と が き	…………… (74)
企 業 案 内	アニマルジェネティックスジャパン(株)(表紙-2)、富士平工業(株)(表紙-3)、 (株)コムテック(表紙-4)、(一社)家畜改良事業団(75頁) (株)フロンティアインターナショナル(76頁)、(有)iSeeding(77頁) (株)くまテック(78頁)

